

「子どもがわかって動いて育ち合う授業づくり」

12月13日(土) 10:00-12:00

教育学部公開講座「子どもがわかって動いて育ち合う授業づくり」を開催しました。今回は上越教育大学大学院学校教育研究科准教授の村中智彦先生に御講演していただき、45名の参加を得ました。

村中先生は、上越教育大学附属障害児教育実践センターで、自閉症や知的障害のある児童生徒への応用行動分析をベースにした教育相談・臨床を長年にわたって実践しておられます。最近では子どもが主体的に動いて参加できる授業づくりをめざして、特別支援学校、特別支援学級の現場の先生方との共同実践に取り組んでいます。

今回の講座では、全国各地で先生がかかわっている学校現場の取り組みを、ビデオで紹介していただきながら、子どもが自分でわかって判断し、主体的に動くことを可能にする人的配置や個別支援のあり方について具体的に教えていただきました。

参加者は学校現場の先生方が多く、自分たちの日頃の実践を振り返りながら、子どもが、自分でできる、わかるという喜びを、教師も自らの喜びとすることの大切さと、それを実現する授業づくりの基本的考え方と具体的な手がかりを学んでいただけたと思います。



